

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月1日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100674
法人名	医療法人 裕智会
事業所名	グループホーム アルプスの風 3階 菜の花
所在地	鹿児島市荒田一丁目11番1号 (電話) 099-296-8008
自己評価作成日	平成29年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年2月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居して、時間的な経過と共に高齢者が増え100歳を越えている人が3人(平均年齢94歳)となり、認知症の進行やADLの低下が目立つようになってきている。車椅子を利用している人も約半数で、車での遠出が困難となり、年間を通して全員での外出は2回のみであった。しかし、できるだけ外出の機会をと考え、車で数人での外出や、グループホームの近辺の外出をサポートしている。

○自尊心や尊厳を損なわない活動として、数字合わせを導入した。職員主導ではなく、入居者が自発的に取り組むアクティビティは、コミュニケーションの機会ともなり、自立・自律した生活に繋がっている。○院内研修は、今年度までグループホームアルプスの風が担当しているが、11月に各部署の事例発表を行ない、ケアの振り返りや、事例から学んだ知識や技術、今後の課題などでケアの質の向上を目指している。○法人理事長のリハビリ体操、音楽専門の方による『音を楽しむ会』ボランティアの方による太極拳やアコーディオン、壁絵づくり、秋祭り、敬老会、地域の文化祭、買い物リハビリ、クリスマス会、忘年会、さらには認知症カフェ：ある・あるカフェなど様々な行事で、入居者の生活支援をしている。

○ホームは、鹿児島市の市街地のビルの3～4階に設置されており、1階には法人母体のクリニック、2階に宅介護支援事業所、通所リハビリテーション等が併設されている。法人は地域との交流を積極的に取り組んでおり、「秋祭り」や「あるあるカフェ」には多くの地域住民の参加が得られ、また、各施設は日頃から高齢者福祉や認知症ケアに関する相談や質問等に専門性を活かして対応し、ボランティアや保育園児との交流や体験学習、施設研修等を積極的に受け入れて交流を図っており、地域住民との信頼関係が築かれている。

○管理者及び職員は、ホームの理念に沿って、利用者の尊厳や誇りを大切に敬愛の気持ちで一人一人の想いに寄り添い、利用者が地域や家族との繋がり継続し、幸福を感じながら安全で自由な生活が維持できるケアの実践に取り組んでいる。利用者及び家族の想いや要望等に対しては、全職員で協議して個別のサービスも十分に取り入れながら利用者主体のサービスの向上を図っており、利用者及び家族との深い信頼関係が築かれている。また、法人母体のクリニックとは日常的に密な連携が図られており、重度化や終末期対応の体制も構築されて利用者及び家族の大きな安心感となっている。

○管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションにより信頼及び協力関係の構築に努めており、自由に意見を述べ合い協議できる体制が築かれて運営やサービス向上に活かされている。また、職員のスキルアップを図るため、職場内研修の実施や外部研修への参加、資格取得へのバックアップ等に努め、職員の個人的事情にも細かに配慮しながら勤務シフトの作成し、休暇取得も推奨するなど働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ステーション内及び出入りに理念を掲示している。「家族や地域との繋がり」に根ざしたものとなっている。職員カンファレンスや日々の申し送り等を通し、実践に活かせるよう努めている。	利用者が地域や家族とのつながりの中で毎日楽しく穏やかに、その人らしく過ごせるように、ホームの理念を作成して、目に付きやすいステーションや玄関に掲示している。職員カンファレンスや毎日の申し送り時にケアの振り返りや意見交換等を行って意義を共有し、利用者主体の最善のケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	1年の行事には、音を楽しむ会・校区の文化祭への出展・秋祭り・餅つき・校区の保育園児との交流・校区の中学生の職場体験・認知症カフェなどがあり、地域住民とお互いに触れ合う機会をつくり、交流を図っている。	校区の文化祭に作品を出展し、法人主催の「あるあるカフェ」「秋祭り」には多くの家族や地域住民の参加がある。また、保育園児との交流や中学生の職場体験、友人知人の来訪、定期的な楽器演奏のボランティア、実習生等を積極的に受け入れ、散歩時に地域の人々と挨拶や会話を交わすなど交流しており利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験学習の受入を行っている。また月に一度の認知症カフェや運営推進会議も、地域の交流と認知症への理解の場・相談の窓口として、欠かせないものとなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催。入居者・家族・職員・民生委員・地域住民・地域包括支援センター職員などの出席の下、入居者の生活状況の報告を行っている。会で話し合われたことや指摘されたことはスタッフ全員が共有できるように記録に残し、今後のサービス向上へ努めている。</p>	<p>会議は利用者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加して定期的開催している。ホームの運営や利用者の現況、ヒヤリハット等の報告と、高齢者福祉や認知症ケアに関する研修や意見交換をおこなっている。委員からは高齢者の食事や終末期のケアに関する質問や意見等が出されており、会議の内容は議事録で共有してサービスの向上や業務の改善に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>施設の運営に必要な各種手続き・相談事、市の担当者への問い合わせなどを通して随時連携し、助言を頂いている。</p>	<p>市担当者とは入退所や認定更新の手続き等のほか、ホームの運営やケアに関する各種制度について相談や意見交換するなど協力関係が築かれている。また、市や社協主催の会合や研修会にも積極的に出席して、行政職員や他施設職員と情報の交換を行いサービスの向上に務めている</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の危険性や種類・それによって起こる危険についての理解を深めるため、研修や勉強会を定期的実施している。職員は適宜環境の整備やケアを工夫し、入居者の安全と安心な環境を心掛けている。今後も廃止に向けて努力していく。</p>	<p>身体拘束や虐待防止、権利擁護に関する研修を計画的に実施して共有を図り、利用者の尊厳を大切にされた適切な言葉づかいやケアの方法などを具体的に話し合っ拘束のないケアに努めている。法人全体で安全委員会も開催して改善を図っており、昼間は居室や玄関等の施錠は行なわず、見守りや声かけ、寄り添いに努めて利用者の安全を確保するなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修・勉強会を行い、全員が学ぶ機会を設け、理解を深めている。事業所内でのケアを相互確認し、人的環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度についての研修を実施し、理解を深めるよう努力している。今後も状況に応じて関連機関との連絡や相談を行い、連携を図りつつ活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の契約締結時には互いに契約書の読み合わせを行い、入居者及び家族が疑問点などを質問できるようにしている。解約や改正等の際もその都度十分な説明を紙面と口頭でも行うようにし、理解していただけるように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	フロア入口にご意見箱を設置し意見や要望、苦情を受け付けている。また、隔月開催の運営推進会議・議事録の自由な閲覧や自己評価等自由に目を通せるようにしている。年2回ある家族会でも家族同士で話ができる時間を作って、以降のケアに反映できるよう努力している。	入所時に利用者や家族の要望・意見などを聞き取り、その後は利用者の思いを日常会話や表情等から理解に努め、家族とは来訪時や電話、運営推進会議、年2回開催の家族会等で意見要望を把握している。また、意見箱も設置して意見が出しやすいように工夫している。出された意見等は申し送りや職員カンファレンス等で共有を図り、職員全員で話し合っ改善を図っており、本人及び家族にも報告して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われる職員カンファレンスで、意見交換を行えるように努めている。また日常的に意見を出しやすいフロア環境を作り、意見を反映できるよう努めている。	管理者は日頃より話しやすい雰囲気作りに努め、職員カンファレンスや毎日の申し送り、業務の中、個別面談等で、職員の悩みや業務に関する意見、要望等を聞き取り、業務改善やサービス向上につなげている。勤務シフトの作成や外部研修受講等については可能な限り職員の希望を受け入れ、また資格取得へのバックアップに取り組むなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個人の目標や業務に関する悩み等を理解するよう努め、時間を設けて、適切なアドバイスを評価が出来るよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各部署持ち回りと、外部依頼の法人内部研修の年5回の実施と毎月1回の認知症の勉強会を実施、外部研修にも参加できるように、研修案内を職員の目に留まる場所において、職員に直接参加の声掛けをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加や同業者の実習受け入れの機会を活かした情報交換や、ネットワークの形成をし互いのサービス向上を目指して努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に事前面接を行ないご家族や周囲から得た情報を基に、本人の「思い」を重視したケアプランの作成し実践できるようとめている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族と事前面接の機会を持ち、本人・家族両方の困りごとや不安等聞いている。また、これまでの経緯と、介護負担をよく理解し、ねぎらいの言葉掛け、要望を把握し双方の信頼関係の形成を行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族からの面接で得た情報を基に、必要な支援を計画する。「その時」必要とするケアを優先的に行ない、入居者にとっていち早く安心できる環境作りに努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者自ら「できる事はする」という意識が持てるよう、日常の生活の中で働きかけている。周囲との共同作業などでやりがいや自身の居場所の確認が出来るよう共同生活者としての関係を築けるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、家族と職員、医療従事者は互いにケアチームの《パートナー》であると説明している。入居後も喜んで会いに来ていただけるような環境作りや雰囲気作り、行事などの声掛けを行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会や電話、外出の自由を保つ事で社会と関わりの継続に向け支援している。入居以前の人間関係の維持のため、必要に応じ個人情報の保護意識の下で連絡を行うよう努力している。	利用者の入所前の生活状況を本人や家族、関係者から把握して情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、本人の希望に沿って、近隣のドライブや外食等に取り組んでいる。遠方の家族には情報紙「かぜのたより」にコメントを書き添えて利用者の状況を伝え、電話や手紙の取り次ぎも行って、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、ティータイムを通して、それぞれの入居者が一緒に楽しめる環境作り、支援体制作りに努めている。入居者同士の関係性を把握し居心地良く過ごせるような調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者のサービス終了後でも、ご家族の通院や新たな場所でのサービスについての相談や電話連絡に対し、フォローなどを継続して実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の意向を把握する為、普段からの会話や表情・言葉や口調、しぐさ等から気持ちを感じ受けとめるよう努力している。モニタリング、アセスメントを定期的実施し、これを基に、入居者が自分らしく生活できるケアプランとなるよう作成を行っている。	日頃の関わりの中での対話や表情、仕草、独自のサイン等で利用者の思いや意向の理解に努め、イラストを取り入れた「私はこうしてもらえたら」に整理して共有を図り、その人にとって最善のケアを目指して支援に取り組んでいる。余暇時間の過ごし方や趣味等の取り組みについても、利用者の身体状況等に配慮しながら、可能な限り希望に添って個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境やサービス利用の経過を把握し、家族や情報提供書、またケアマネジャーなどから情報収集を行ない、フェイスシートの作成を実施している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各記録物の確認を業務前に行うことで現状の経過の把握に努めている。また職員同士の情報共有をする為申し送りを実施し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族・計画作成担当者・担当職員、主治医（文書）からそれぞれの意見を反映し、ケア会議を実施し、合意形成、現状に即した介護計画を作成。各担当職員がケアプラン評価を行い、他の職員や計画作成担当者の意見も合わせて介護計画を作成している。	本人及び家族の希望や主治医からの意見、助言等を十分に把握し、モニタリングや職員の意見を基にして、具体的に解りやすい介護計画を作成している。ケアの経過はフォーカスチャータニング様式やバイタルチェック表に詳しく記録され、利用者の状態変化に対しても実態に添った計画の作成や修正を行って改善に向けた支援に努めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の思いが反映できるようにケア内容を記録し、ケアプランの見直しにも活用できるよう取り組みを行っている。フォーカスチャータリング様式でケアプランに沿った項目を経過記録に掲げ、介護計画の実施に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランは各入居者の希望や思いなどを受けとめ、状態の変化にも即したものを作成し、ケアは個人に対応するように様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流を積極的に進めており、こちらから運営推進委員会、季節ごとの行事に地域の方の参加を呼びかけている。また地域の文化祭に展示物の出展を行うなど、双方の信頼関係を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携が取れており体調が悪い時など、すぐに対応が出来る。また定期受診が月に2度実施され、普段から体調の変化を観察・報告するなどの環境、主治医の支援体制が整っている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しているが、殆ど利用者が同法人の医療機関を主治医としている。定期的な通院や健康状態のチェック、歯科の訪問診療、専門医の受診等を丁寧に支援しており、利用者や家族の安心に繋がっている。利用者の病状や受診結果は詳細に記録し、家族にも病状や受診結果を報告するなど密に連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療職との連携を重視し看護師が日常的に健康状態の確認、適宜・週に一度の記録を行うなど、利用者の健康状態のチェックを細かく実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院にも、医療機関に対しサマリーにより正確な情報を提供している。退院に向けて医療機関・関係者との連絡体制、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に医療連携体制・重度化・看取りの指針を説明している。主治医が終末・看取りと判断した時、家族、介護職員と主治医とでカンファレンスを実施して連携・理解の共有を図っている。	重度化や終末期におけるホームの対応は入所時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状の説明がなされ、職員や関係者、家族は十分な話し合いを繰り返しながら可能な限り家族が希望する支援に取り組んでおり、これまで2件の看取りを実施している。終末期のケアに対する職員のスキルアップや不安感の軽減については、管理者がフォローや指導に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年必ずほぼ全ての職員が救命救急の研修を受講し、急変時の対応を理解しまたスムーズな医療連携を行うよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練にて、避難経路・警報システムの操作を職員全員が把握できるようにしている。夜間の避難を想定し、職員一人での避難演習、連絡などの訓練も実施している。	消防署と連携して、年2回、火災や地震災害を想定した通報、避難・消火訓練を実施しており、消防署職員による災害に関する講話や研修も行われている。特に職員一人勤務となる夜間災害に対する意識は高く、通報や避難方法、経路等の訓練も実施し、また、報道された災害等を事例に意見交換して認識を深めている。スプリンクラーや自動通報装置等を完備し、災害時の食料や飲料水の備蓄や懐中電灯や卓上コンロ等も整備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格、生活歴などを尊重した言葉かけを心掛け、また職員間でも声掛けについて互いに指摘できる環境作りに努めている。	人格の尊重とプライバシーの確保については、マニュアルを整備し、計画的に研修を実施してケアへの反映に努めている。居室への入室、排泄・入浴・衣服交換等のケアに際しては、尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように十分配慮して取り組んでおり、居室やトイレ、浴室はプライバシーが確保された構造になっている。また、ケアに関する台帳等もプライバシーの保護に配慮して適切な取り扱いがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望をアセスメントし出来る限り本人の思いが実現できるように努力している。そして、自身の思いを表現しやすい環境・雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間のきまりごとを優先するのではなく入居者のその日の体調や心の状態を考慮し、本人の希望する生活が行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝整容を行ない、本人・家族からも意見を聞き、好みの服装が出来るよう支援している。外出時のメイクは入居者にも好評である。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の一人ひとり無理のない範囲内で調理補助・食卓の準備・後片付けを役割分担し行っており、生活に張りがあるよう支援している。	身体状況に伴う制限や形態、栄養バランス、好み等に配慮しながら、旬の野菜で季節感のある食事づくりに努めている。行事食や、外食、弁当持参の外出、手作りのおやつ、家族との会食など食事が楽しみなものとなるよう日々工夫しており、食材の下処理や下膳等は利用者も楽しみながら行っている。口腔ケアや入れ歯の消毒など利用者の状況に添って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況により、日々、適切な食事量・水分量を摂取できるように努めている。また、年齢、嚥下状態に合わせて個々の食事を工夫をし、食事を楽しめるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員一人ひとりが口腔ケアの重要性を認識し、毎食後、各入居者の口腔状態や力に応じた口腔ケアの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は、トイレでの排泄の重要性を認識し、入居者の羞恥心や尊厳に配慮しながら、トイレでの排泄が続けられるよう支援している。	利用者毎に排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、食事の摂取状況や水分補給等も個々に把握しながら便秘の予防に取り組んでいる。羞恥心や不安の軽減にも細かに気遣い、利用者の状態に応じて2人介助や排泄用具・用品の工夫、支援方法等を介護計画に反映させて改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄のチェックを行い、入居者の心身に便秘が与える影響を理解し、個々に合わせた食事形態・運動など必要な支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者一人ひとりの心身や希望に柔軟に応じた入浴ができるよう努めている。週3回の入浴だが、時間帯、健康状態など個々に応じた支援も行っている。	利用者の健康状態に配慮して足浴や清拭も含め、週3回午後入浴を基本としているが、排泄の失敗等に対しては即時に清拭や入浴で清潔を保持している。入浴の日時や温度等も希望に添って柔軟に対応し、皮膚疾患の手当も行いながら、ゆっくりと入浴を楽しめるように個浴で取り組んでおり、親密なコミュニケーションの場にもなっている。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間やスタッフの変更、声掛け等を工夫して、利用者の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は、基本21時であるが、各入居者の希望の時間で入床してもらい、エアコン等を使用しながら快適な環境で休めるよう支援を行っている。日中も健康状態に応じ休息を取ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が法人主治医からの薬の説明、薬剤師による管理指導を受け、薬の目的、副作用、用法、用量について理解し、服薬の支援をし、一日を通じ症状変化の確認や報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに合わせた自立支援を心掛け、得意分野を把握し、興味を理解し、会話をしながら洗濯物の干し畳み、調理やお盆拭きなどを行っている。レクリエーション活動、行事、散歩などの参加を通じ気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	花見や敬老会などの外出レクリエーションを実施している。天気の良い日は周囲の散歩やドライブなどの外出の機会がある。外食などの支援も家族の協力で行っている。	外出に関する利用者の意向は、日常の関わりの中で把握に努めている。利用者の重度化に伴い、全員での遠方への外出等は難しくなっているが、健康状態や天候等に配慮しながら、敬老会の外食、弁当持参の甲突川での桜花見、ミニドライブ、通院、5階フロアでのディケア利用者との交流などの外出でリフレッシュを図っている。また、日常的に屋上での日光浴や敷地や周辺を花を愛でながら散歩する等、利用者の意向に添って外出の支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つことで安心して貰える大切さを職員も理解している。小口現金として預かり、職員と共に買い物リハ（レク）に行けるよう生活の中に定期的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙の通信の自由は、基本的な人権に関わることと捉えている。要望がある際は時間帯を考慮し自由に電話など行えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が心地よく過ごせるよう、清潔が保たれるように支援している。エアコンの場所によって温度調整をしている。入居者が季節を感じる事が出来る絵や置物、壁画を共同制作している。	リビング、廊下等は余裕ある広さで明るく、室温や湿度・換気、衛生、整理整頓等に十分な配慮がされている。随所に季節の活花や手作りの作品が飾られ、テーブルセットやテレビ等の家具が利用者の利便性を考慮して設置されており、和やかでゆったりと寛げる環境になっている。窓からは街並み等が望め、敷地のプランターには多くの花が植えられており、利用者は日常的に四季を感じながら好みの場所で日光浴や談笑を楽しむなど居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性も考え、座席の調整を行なっている。コミュニケーションを大切にしながら、ソファでもゆっくりとした時間を過ごせるよう配置を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の使い慣れた家具を、ご家族の協力もあり持ってきていただいている。居室には写真や壁飾り、自身で色塗りした毎月のカレンダー等を飾り、居心地の良い居室になるよう工夫している。</p>	<p>居室は、フローリングの床に腰高窓の仕様で明るく、エアコン、ベッドが備えてある。異臭や空調、清掃等衛生面に配慮し、利用者が安心安全で快適な生活が営めるように日々支援に努めている。家庭同様に落ち着いた日々が過ごせるように、使い慣れた寝具や、テーブル、家族写真、小物等を自由に持ち込み、また自分の作品の絵等を飾って、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立した生活ができる支援と共に、安全な環境づくりに努めている。入居者の状態変化時には、本人の自信を損なわないよう気をつけ対応できる環境づくりをしている。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない